

③観光協会支援事業

経済環境部商工観光課

観光・労働グループ

1 事業概要

施 策 番 号	3 - 6
施 策 名	観光
施 策 目 標	市外から多くの人々が観光に訪れ、にぎわうまちを目指す。
事 務 事 業 名	観光協会支援事業
担 当	経済環境部 商工観光課 観光・労働グループ
開 始 年 度	平成 18 年度
法 的 根 拠 等	稲沢市観光協会補助金交付要綱
事 業 の 目 的	観光協会を中心にして観光振興に取り組み、市内外から多くの人々が観光に訪れにぎわうまちにする。
事 業 費 (人件費相当額を含まず。)	平成 27 年度予算額 19,988 千円 平成 26 年度決算額 19,680 千円
人 員	平成 27 年度 0.08 人 (人件費相当額 520 千円) 平成 26 年度 0.08 人 (人件費相当額 520 千円)

2 事業内容

(1) 事業の背景

全国で人口が減少すると予想されている中、自然・歴史・文化・産業などの地域資源を生かしながら地域の魅力を高めていく必要があり、その方法のひとつとして観光が注目されている。稲沢市においても、全国的な傾向と同様に、まちの賑わいや活力を高める手段として観光によるまちづくりが期待されている。

稲沢市は、平成 17 年 4 月に旧稲沢市・旧祖父江町・旧平和町が合併し、各地の自然・歴史・文化・産業などさまざまな地域資源の活用方策の可能性が大きく広がることとなった。そのため、観光まちづくりを推進するにあたっては、市全体の観光資源を整理し、地域特有の魅力を高める観光戦略が必要となった。

この観光まちづくりへの新たな一歩として、平成 18 年 8 月に稲沢市観光協会を立ち上げ、地域資源を活用したまちづくりの推進と観光事業の振興及び地域の活性化のため各種事業を行っている。

市は、その活動を助成し、観光振興の向上に資するため立ち上げ当初から補助金を交付することとし、現在に至っている。

(2) 補助対象となる事業及び経費

補助対象事業	補助対象経費
1 観光資源の調査、研究開発に関する事業	1 人件費（4人分）
2 観光資源の整備、保全に関する事業	給料、諸手当、共済費
3 観光情報及び資料収集に関する事業	2 事務費
4 観光物産等の宣伝及び販売事業	旅費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料、
5 観光協会運営事業	備品購入費、負担金
6 その他市長が認めた事業	3 事業費
	報償費、需用費、委託料、使用料及び賃借料

(3) 補助金の年度別内訳

	人件費	事務費	事業費	合計
平成25年度	12,656,000円	3,623,000円	2,478,000円	18,757,000円
平成26年度	12,940,000円	4,262,000円	2,478,000円	19,680,000円
平成27年度	13,064,000円	4,446,000円	2,478,000円	19,988,000円

※平成25及び26年度は決算額で27年度は予算額。

(4) 主な観光協会事業の概要

ア 観光資源の発掘、調査研究及び観光情報の収集

- ・ いなっぴーバスに乗って観光地を巡ろう （平成 22 年度から実施）

そぶえイチョウ黄葉まつりにあわせ市内循環バスを配車し、美術館、稲葉宿、善光寺、ふれあいの郷、祭り会場、矢合観音、下水道科学館等の様々な観光スポットを巡るコースを設定して新たな発見をしてもらうための企画実施。参加者は例年約 100 名。

イ 観光ガイドブック、マップ等観光情報紙の作成

- ・ ガイドブック 平成 23 年度 20,000 部作成 平成 26 年度 30,000 部作成

- ・ ガイドマップ 平成 23 年度 20,000 部作成

- ・ 矢合観音と 3 か寺めぐりパンフレット

平成 23 年度 5,000 部作成 平成 25 年度 5,000 部作成

- ・ おすすめグルメガイドマップ 平成 25 年度 10,000 部作成 平成 26 年度 10,000 部作成

- ・ コミュニティバスに乗って観光地へ行こう 平成 24 年度 5,000 部作成

ウ 市の観光PR及び稲沢市観光協会ホームページ（以下、協会HP）による情報発信

- ・市内外のイベントに出展し、パンフレットの配布等により観光PRを実施している。
- ・協会HPには市内各種イベントの案内を掲載するとともに、問い合わせには周辺情報を含めて伝えている。
- ・椙山女学園大学で作成された市内の仏像を紹介する「デジタルミュージアム」にリンクを張ることにより、普段見ることの出来ない文化財を何時でも手軽に鑑賞可能となった。

エ いなざわ梅まつりの開催

- ・平成25年度 開催日 平成26年3月8日・9日 来場者数 20,000人
- ・平成26年度 開催日 平成27年3月7日・8日 来場者数 20,000人

オ 「いなッピー」グッズの開発及び販売

現在12種類のグッズを販売中。

- ・平成26年度にマグネットクリップを追加している。

市内常時販売場所

稲沢市役所 1 階食堂内(宝竹)、稲沢市民会館内レストラン(宝竹)、稲沢市勤労福祉会館喫茶食堂内(宝竹)、アピタ(稲沢店、稲沢東店)、ヨシツヤ(新稲沢店、平和店)、稲沢市観光協会

カ 旅行社や報道各社への情報提供

季節ごとに各種イベント情報や画像データを情報誌や旅行社等へ提供して新たな旅行商品の開発に協力している。

特に近年は、イチョウ黄葉まつりへの関心が高まっており、関西方面や関東方面から観光バスが訪れている。

キ 特産品の発掘、宣伝・販売

・グルメシールラリー 平成 26 年度 実施期間：10 月 1 日から 12 月 31 日まで

参加店舗数：44 店 応募総数：1,182 枚

・地産地消料理教室の実施 平成 26 年度 大里東公民館と総合文化センターで開催

参加者数：43 人

ク 観光ボランティアの育成

- ・登録人数 平成 25 年度 32 人 平成 26 年度 31 人
- ・活動延べ日数 平成 25 年度 194 日 平成 26 年度 166 日

ケ 観光関連機関との連携強化

- ・名古屋鉄道㈱が開催する名鉄ハイキングにおいて運営に協力している。
- ・一宮市、清須市、岐阜市、大垣市、羽島市、垂井町、安八町と美濃路街道連携協議会を組織し、美濃路に関するウォークイベントや物産展を関係自治体及び同観光協会と共同で実施している。

コ キャンペーンレディの活用

各種イベントのキャンペーン並びに運営に参加するほかに、選挙広報活動等行政の PR 活動にも協力している。

サ 観光協会ニュースの発行

毎年 1 月、6 月、10 月の年 3 回発行している。過去のニュースは協会 HP で公開している。

<http://www.inazawa-kankou.jp/inews/>

シ 会員募集活動

・個人会員数	平成 25 年度	4 3 2 人 (755 口)	平成 26 年度	4 4 7 人 (752 口)
・法人会員数	平成 25 年度	1 3 7 団体 (271 口)	平成 26 年度	1 3 7 団体 (270 口)

(5) 観光協会事業の効果

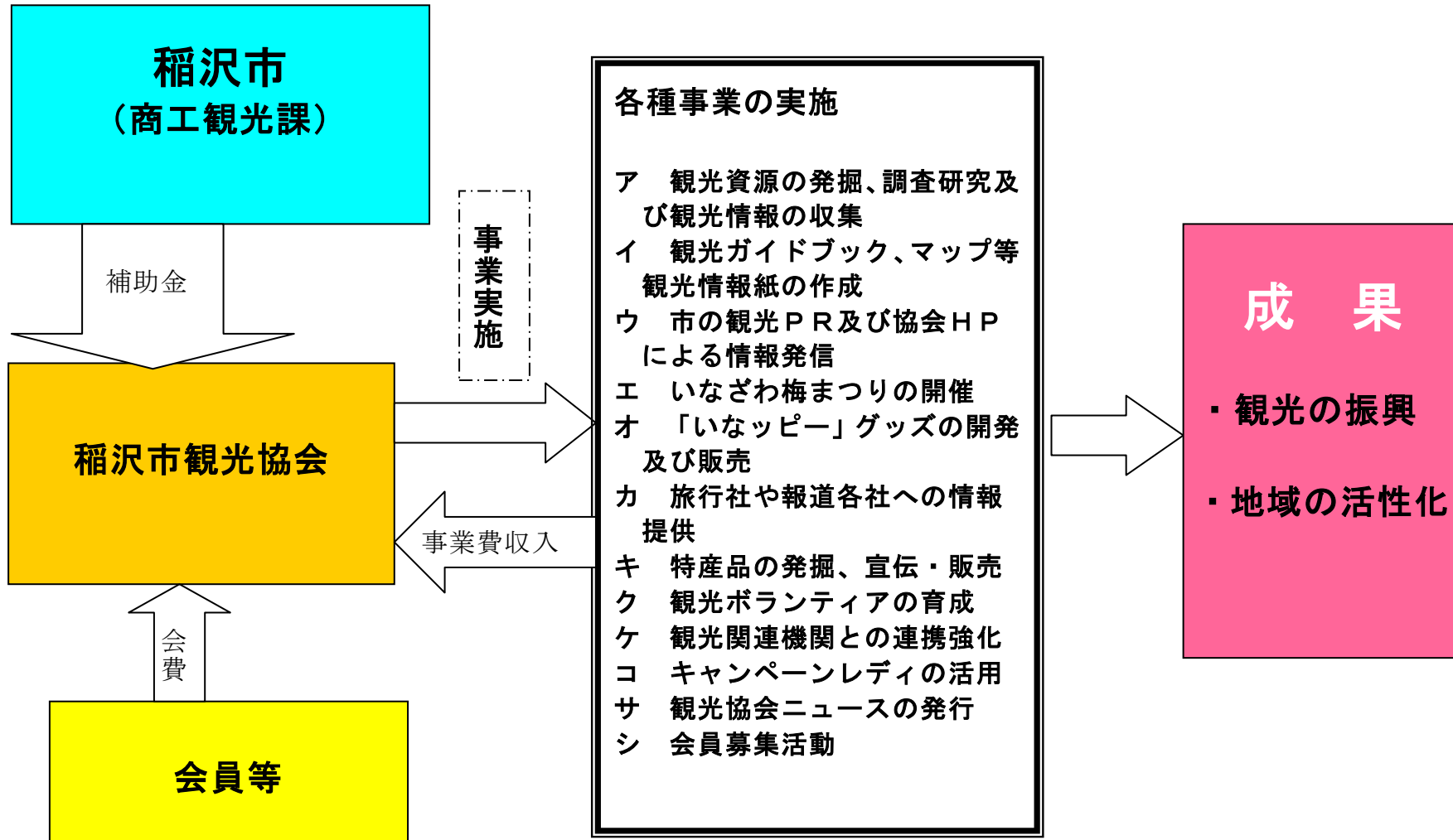
事業の実施により、稲沢市の歴史、文化、各種特産品の地域情報を発信することで稲沢市の魅力を高め、市外からの観光客を誘致して、多くの人が集まるまちを形成して地域振興を図り、さらには人の出会い、ふれあい、交流を育む住みよいまちづくりへとつなげる。

(6) 現状と課題

- ①観光協会に対する認知度が低い。
- ②取り組む事業が固定化している。
- ③観光案内所が設置されていない。

3 事務事業イメージ図

〔観光協会支援事業の流れ〕



4 1次評価の考え方

妥当性の観点	市の観光まちづくりを推進するうえで、行政だけでなく事業者や市民が関わっていくことが必要で、その連携の中心となって多岐にわたる観光施策を実施する役割を観光協会は担っている。市の観光行政の一翼を担う観光協会の運営に対して、市は支援を行うものである。
有効性の観点	地方創生の施策として観光に力を入れていくことが求められており、様々な観光施策を遂行する観光協会を支援することで、地域の活性化につながっている。
効率性の観点	観光協会としてより高い独立性を目指して、事業内容や事務の見直しによる経費削減や会員数や参加者の増加を図る等収入確保を目指す方策の検討が必要である。
今後の方針	観光振興を目指して設立した観光協会が主体となって今後は市の観光事業を推進していかなければならない。そのための組織づくりや体制の整備が必要であり、事業費のみならず、人件費や事務費に対して側面的な支援を継続していく。

**稲沢市
事務事業
評価シート**

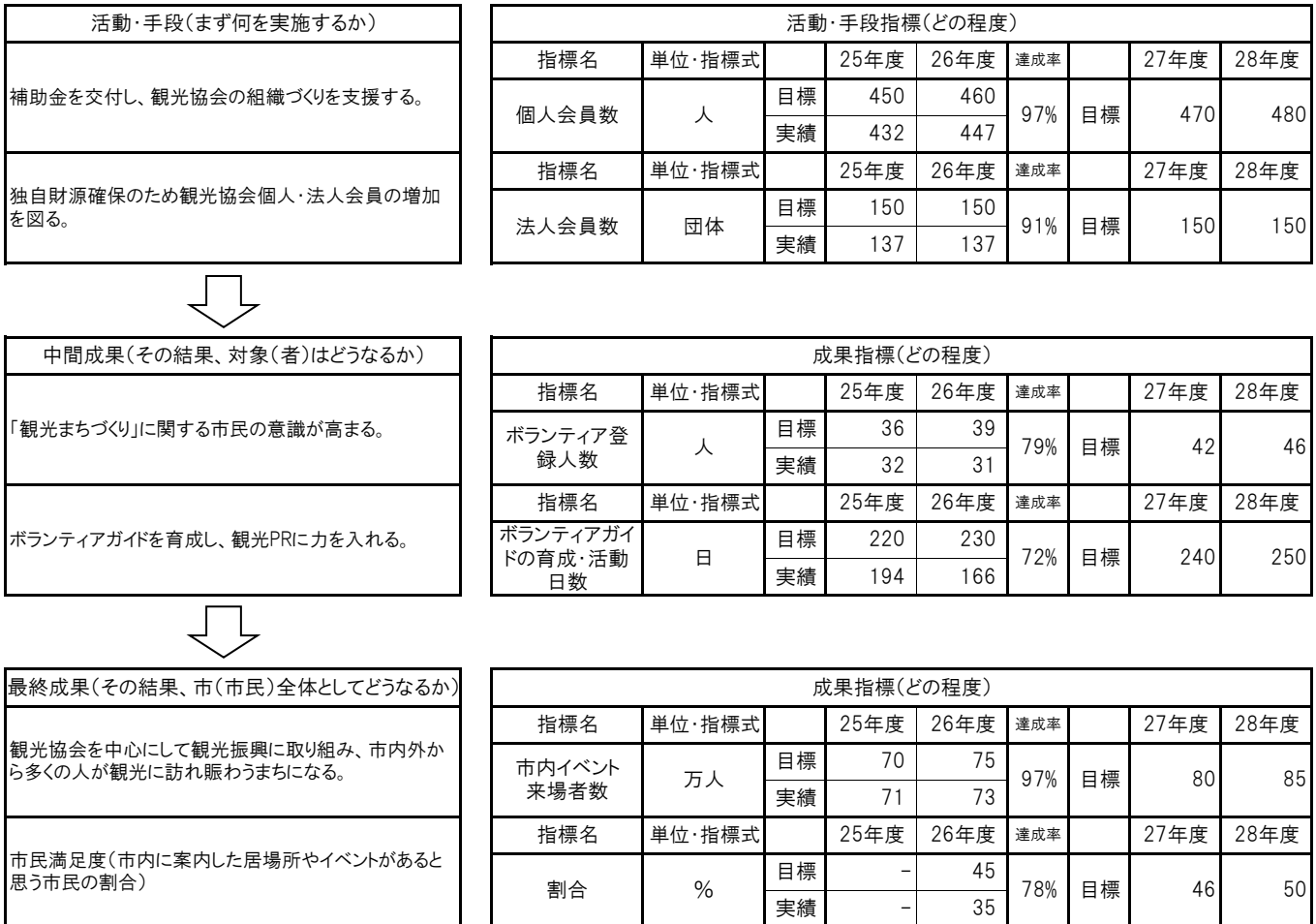
事業番号
事27-6

事務事業名	観光協会支援事業				
担当部局	経済環境部	担当課	商工観光課	担当グループ	観光・労働グループ
担当連絡先	0587 - 32 - 1111 (内線 272)				
施策番号	3-6				予算費目
施策名	観光				
施策目標	市外から多くの人が観光に訪れ、にぎわうまちを目指します。				
関連事業名	-				
会計区分	一般会計				
款	商工費				
項	商工費				
目	観光費				
事業	観光活動費				

a1:事務事業の概要

事業期間	H18年度 ~ 終期末設定		
根拠法令等	法律	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	名称(稲沢市観光協会補助金交付要綱)
	条例要綱等	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
実施手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金		
事業の概要	活力に満ちた魅力あるまちづくりと観光事業の振興を目的として、観光協会に補助金を交付し、稲沢市における文化の向上及び地域の活性化に寄与すること。		
	委託・補助金等の内容	稲沢市観光協会補助金交付要綱のとおり	
事業の目的(施策との関連性)	観光協会を中心にして観光振興に取り組み、市内外から多くの人が観光に訪れ賑わうまちにする。		
事業の対象(者)	稲沢市観光協会	対象(者)数	1 (単位) 団体
現況と課題	観光協会では、平成18年8月7日の設立から10年を迎えるが、主体となって取り組む事業は当初に比べてあまり増えておらず、内容についても固定化している。また、独自財源の確保にあたる会員数の増加を図れていない。		

a2:事業目的の達成に向けて【ロジックモデル】



a3: 事業に必要な経費

コスト把握(手段実施にいくらかかるか) (単位:金額は千円、職員数は人)						単位当たりコスト	
費目	内容	25年度	26年度	27年度	28年度	平成27年3月31日現在	
コスト	委託料					人口 138,230 人	⇒ 市民一人当たりコスト 146.13 円
	補助金	18,757	19,680	19,988	19,988	世帯 52,578 世帯	⇒ 一世帯当たりコスト 384.19 円
	その他					事業の対象(者)数	
	人件費	従事職員数×6,500千円	520	520	520	520	対象 1 団体 ⇒ 対象単位当たりコスト 20,200,000 円
従事職員数		0.08	0.08	0.08	0.08		
計		19,277	20,200	20,508	20,508		
収入	国・県支出金					特記事項	
	その他					補助の内訳は人件費、事務費、事業費の一部を対象としている。事務局専従人員は平成19年度から3人、平成25年度からは参与職を廃し専従4人体制である。	
差引市税等		19,277	20,200	20,508	20,508		

b1: 個別評価

Side b

個別項目		評価観点	評価(3高～低1)		
妥当性	目的妥当性	1: 事業の目的は、上位施策の実現につながっているか?	⇒ 3	上位施策の実現のために不可欠である	5
	市の関与	2: 国・県・民間事業者との役割分担や市民活動のあり方等から、市が実施することが妥当であるか?	⇒ 2	市と市民・民間事業者等とで協働すべきである	
有効性	社会環境への適合性	3: 事業の目的等は、社会経済情勢の変化など時の経過に適切しているか?	⇒ 3	社会環境に適合している	7
	市民ニーズ等	4: 利用者・対象者の推移等からみて、市民ニーズは低下していないか?	⇒ 2	市民ニーズは低下傾向にある	
	進捗度合い	5: 事業の成果は上がっているか?	⇒ 2	どちらかといえば成果が上がっている	
効率性	活動・手段の最適性	6: 活動・手段は、最適なものとなっているか?	⇒ 2	活動・手段に見直しの余地はあるが概ね妥当である	6
	受益者負担	7: 受益者の費用負担(補助金・負担金等は、補助・負担割合)は、社会経済状況や物価の推移などに照らして適切であるか?	⇒ 2	負担割合を部分的に見直す余地がある	
	コスト削減	8: 事務の見直し等による従事時間の縮減やコスト削減の余地はないか?	⇒ 2	コスト削減を検討する余地がある	



b2: 総合評価

総合評価と所見	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)	【総合評価・記号の定義】
	B	今後は観光協会が主体となって市の観光事業を推進していくことが求められる。そのための観光協会の組織づくりや体制の整備に時間を要する。これに伴って、人件費や事務費の補助が欠かせない状況が続くものとする。	A: 計画どおり事業を進めることが適当である B: 事業の進め方などに改善が必要である C: 事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D: 事業の廃止・休止の検討が必要である



b3: 改革・改善計画

改革・改善の方針	事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 方法改善 <input type="checkbox"/> 統合・縮小 <input type="checkbox"/> 市民協働・民間委託 <input type="checkbox"/> 廃止・休止
	投入するコスト	<input type="checkbox"/> 増額 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 投入しない
これまでの取組状況	稲沢の観光と言えば、観光協会。となるよう認知度を上げていかなければならない。今まで以上にコストをかけられない中で、現在市が執り行っている各種祭りやイベントについて、観光協会が主体となって観光事業に取り組めるよう、企画から運営までのかじ取りを行うことが必要である。	
今後の実行計画	稲沢市観光協会の法人登録を目指して組織体制づくりの強化を図りつつ、いなっピーを活用した事業を始め、各種まつりやイベント等市の観光事業にかかる業務のウェイトを移していく。今後も、観光協会が主体となって、観光基本計画に基づく観光振興施策の大部分を執行できるまで、側面的な支援を続けていく。	